

# 工業教育と生徒指導

広島県立福山工業高等学校 校長 朝倉 一 隆

## 1 はじめに

近年、グローバル化や少子高齢化などにより、社会構造が大きく変化している。

そのような中、工業高校として、進学および、就職する生徒に対し、確かな学力、豊かな心、そして逞しい体を育成することは、大変重要なことである。

特に、近年、経済産業省が定義し必要性が重要視されている「社会人基礎力」の育成は、本校にとっても最重要取組事項であり、日常的に具体的な課題を検証しながら全教職員で取り組んでいる。

## 2 本校の概要

本校は、昭和7年に創立され、以来84年の歴史を有し、同窓生は、約2万名を超え、地域社会の発展に、そして広く国際社会においても活躍されている。

本校は、広島県の東部、福山市内の中心部に在り、全日制課程に、機械科(2クラス)、電気科、建築科、工業化学科、染織システム科、電子機械科の1学年6学科、7学級体制である。平成26年度からは、工業化学科と染織システム科を1学級のくくり募集とし、電子機械科を2学級とした。また、定時制課程には、機械科と電気科の1学年2学科を設置している。

生徒数は、全日制780名、定時制82名である。校訓は、「質実剛健」である。これは時代は変わっても本校教育の不易の精神として受け継がれ、生徒は高い志を持ち、勉学や部活動、資格取得等に励んでいる。

更に、本校は、平成15年に広島県教育委員会より専門高校工業学科拠点校の指定を受け、他の工業高校に先駆け、3Dプリンターやレーザー加工機など、先端技術の設備機器の導入やそれに伴う教師の研修の充実を進め産業界の発展に対応した質の高い授業や実習等を通してスペシャリストの育成に努めている。

これまでの成果を踏まえつつ、進学や就職に向けて努力する自己実現力、礼節や豊かな心などの人間力、部活動等を通して鍛え抜かれた心身の育成など、生徒一人一人に真の力を身に付けさせるよう全教職員が努力している。

## 3 本校の目指す生徒像

グローバルな目を見た我が国の大きな課題は社会の急激な高齢化と労働力不足である。これを

克服するためには、今後社会を支える若者の職務遂行能力の向上と社会的責任感の涵養である。

その基本として本校では社会人基礎力の育成に重点を置いている。その具体的取り組みとして、「礼節を重んじ資格取得やものづくりに主体的に取り組む、素直で、生き生きとした生徒の育成」という目指す生徒像を定めた。

これを実現するために必要な力を「福工力」とし、主に次の6項目を重点取組事項とした。

- ①「挨拶をすること」
- ②「時間を守ること」
- ③「授業に集中すること」
- ④「技術力を高めること」
- ⑤「体を鍛えること」
- ⑥「思いやりと耐性を身に付けること」とりわけ本校では、社会人基礎力の基盤をなす「礼節」と「時間を守る」ことの指導に力を入れ、「礼節の福山工業高校」との評価が定着することを目指している。

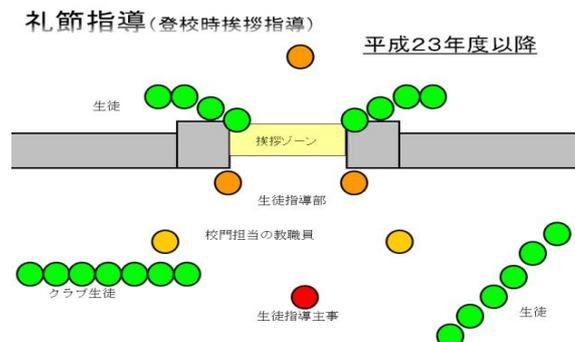
## 4 生徒指導の取組みについて

礼節と規律指導の基本的な取り組みとして、本校が最も重要視し取り組んできたのが、校門指導である。

生徒指導の充実を図るには様々な方法があるが、本校が取り組んだ方法は、一点突破全面展開の方法である。校門指導に重きを置き、本校の力をすべて校門指導に集中させ、他のすべての指導についてもより良い方向に導こうとするものである。そのために、生徒指導の三機能を生かした校門指導の充実を図った。

### (1) 遅刻指導の徹底について

校門指導では、本校のすべてのルール及び社会的なルール、マナーを確実に守らせるとともに、時間を守る指導を徹底して行い、規範意識の醸成を図り、規律性の定着を図った。



(図-1) 生徒指導の三機能を生かす校門指導配置図  
生徒指導の三機能は、①自己決定の場を与えること。②自己存在感を与えること。③人間的ふれ

あいを基盤とするであり、あらゆる領域、教科に生かすことによって、自己指導能力を育成することである。

生徒指導の三機能を生かす一例を示すと、まず、校門において、遅刻をした生徒には、明日から遅刻をしないためには、どのように生活すればいいのかを自己決定させる指導をする。また、挨拶等では、生徒一人ひとりを氏名で呼び、コメントを一言加えるなどを行い自己存在感を高める。

また、頭髪服装の指導や言葉使い等のマナー指導も行うが、人間的ふれあいを基盤とした指導をする。遅刻者については、放課後反省文指導、個別面接及び放課後の奉仕活動等を実施し、5分前登校を義務づけている。このような指導を行うことにより自己指導能力を育成し、遅刻の減少につなげた。

## (2) 礼節指導の徹底について

礼節指導は、本校の学校経営のすべての基本をなしている大切な指導である。その具体的指導は、

- ①登校時、校門において、立ち止まり、学校に対して礼をして入校する。
- ②下校時においても、校門で立ち止まり、学校に対して感謝の礼を行い下校させている。
- ③さらに、校内においては、すべて立ち止まって礼をするように指導している。

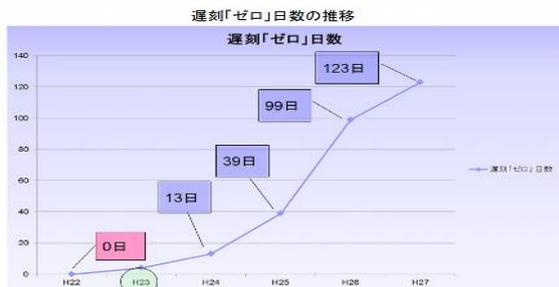
コミュニケーションの基本は、挨拶であり、感謝の気持ちを大切にするとともに、他者を思いやる指導の一環として取り組んでいる。

本校では、礼節指導の徹底を校門指導や全校生徒朝礼、全校集会、授業、実習時の整列訓練等日常的に指導し、生徒の心への定着を図っている。

## 5 生徒指導と工業教育の向上について

### (1) 遅刻指導の成果

#### 遅刻指導



(図-2) 全校生徒遅刻0の日の合計日数推移  
遅刻指導を粘り強く継続して指導することによって顕著な成果が出ており、本年度は、140日を目指している。

この指導により、生徒は時間を守ることが当たり前となり、すべての行動等において、5分前行動ができるようになっている。

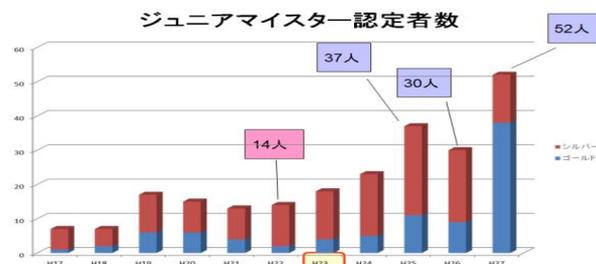
### (2) 礼節指導の成果

登下校時に全校生徒が、校門で一礼すると共に、校内でも、教師や来校者に立ち止まって挨拶をすることができるようになった。また、登下校時に、地域の方々に挨拶ができるなど、「礼節の福山工業高校」の自覚ができてつある。

### (3) 工業教育への成果

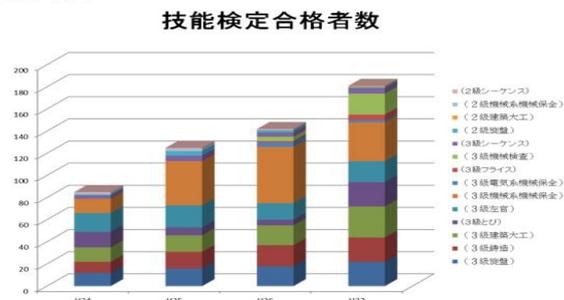
このような取り組みを進める中で、工業教育の更なる活性化が図られた。

#### 資格取得



(図-3) ジュニアマイスター認定者数の推移

#### 資格取得



(図-4) 技能検定合格者数の推移

特に、図3、4にあるように、ジュニアマイスター認定者数の増加、技能検定合格者数の増加など、生徒の意欲向上に効果が表れている。

また、部活動への加入率も平成23年度から30%程度増加し、平成27年度は、90%である。

## 6 考察

生徒指導における成果の要因は、校門指導において、「いけないことはいけない」と指導をやり切ったことである。生徒は目に見える成果が出るに伴い、無理と思ったことでもやればできると自信と誇りを持つようになり、更に集団の一員としての責任感も身に付き、授業への集中力等が向上し、工業教育への良い効果をもたらした。

## 7 おわりに

生徒指導において、このような成果が表れたのは、当たり前の指導を決して逃げることなく、正面から取り組み、積み重ねてきた結果であり、これまで積み重ねを指導された歴代の校長先生、教職員、保護者、地域の方々の取り組みのおかげであると感謝しお礼を申し上げる次第である。

また、広島県の工業の拠点校に指定していただくとともに、様々な施策等でご支援をいただいている広島県教育委員会に深く感謝いたします。